

2020年度第4回阿波おどり実行委員会 議事録

開催日時 令和3年1月21日(木) 午後1時

開催場所 徳島市役所8階 庁議室

出席者 実行委員6名 徳島県1名 事務局5名

1 開会

2 議題① 阿波おどりネクストモデル構築事業の実施結果について

【委員長】

本日は阿波おどりネクストモデル構築事業の検証結果報告書について、委員の皆様にご議論いただきたい。

【事務局】

資料① 阿波おどりネクストモデル構築事業検証結果報告書について説明。

【委員長】

事務局からの説明にもあったとおり、今回の実証イベントでは来場者アンケートによると7割以上の方が今回の公演は良かったと評価されており、また、8割以上の方が感染症対策についても安心ができたと回答いただいている一方で本番に向けての改善が必要と考えられる評価項目もある。また、踊り手や運営の視点からも検証結果や課題が示されているが、今回の実証イベントを行ったからこそ得られたものであるため、来年度の夏の阿波おどり開催に向け、これらの課題を十分に検討していくことが必要である。

それでは検証結果報告書について、意見を伺いたい。

【A委員】

実施日の2日間は晴天にも恵まれ、予定通り実証できたことが何よりであった。私自身も当日、会場内を見て歩き思ったことを発言したい。

踊り連の待機場所、チケットゾーン、検温ゾーンの会場レイアウトについては、見た限りではギリギリいっぱいであった。本場では踊り手の数もさらに増えるので、十分な待機スペースが確保できるのか心配である。ましてや屋台の出店スペースも確保できるのかということも疑問に感じた。踊り連の待機スペース付近においては、チケットを持っていない方、カメラマン、観光客が集まり非常に密になっていた。バリケードでの対策をしたとしても、外から見ようとする人が集まるので、施設管理者の協力が必要にはなるが、完全に密閉空間にしてしまう思い切った対策を取る必要があるのではないか。また、観客席について、密にならないように一定の距離を設けて座席指定をしていたにも関わらず、特

に家族連れだと思うが、決められた座席と関係ないところに固まって座っている方がいたので、繰り返しアナウンスで注意を促す必要があったのではないかと。ショッピングセンターでは座ってはいけないところにバツ印や使用禁止の張り紙を貼っているので、視覚的にここに座るのはダメだとわかるような対策も有効なのではないかと思う。

すでに1月下旬ということでも本番まで残りわずかとなっているので、検証結果を踏まえた具体的な開催案を早く示していただき、議論を進めていけるように事務局にはお願いしたい。

【事務局】

指摘いただいた内容を踏まえ、開催に向けた計画に反映させていただきたい。

【委員長】

会場レイアウトや屋台のこと、家族連れが密になっているなど色々な指摘をいただいたが、報告書にもあるようにそういった部分は何らかしかなら工夫していかなければいけないと考えている。

【B 委員】

概ねというよりは非常に良かったと思う。2日とも参加させていただいたが、1日目の女性の踊り子たちがマウスシールドを付けて、美しい女性の笑顔を見せていただき、また、男性の踊り子も各連の浴衣のデザインを編み込んだマスクを付けていた。単に踊るだけでなく、それぞれ連が観客に魅せる努力をしていると感心した。2日目は総踊りを期待していたが、2m間隔のソーシャルディスタンスを取るということで少し間延びした形となり、総踊りの演出としては難しいと感じた。

今回は全てが規制された形の中での実証実験であったが、いざ本番の阿波おどりに繋げることができるのかと思った。規制通り観客が動いていただけるとは限らない、踊り子たちも規制どおりに動いてくれると限らないので、コントロールすることができるのか心配に思う。

【委員長】

どのようにコントロールするかはかなり難しい議題だと思う。検証結果報告書にも機敷の数をどうするのかという問題があり、1カ所なのか、4カ所なのかでかなり変わってくると思うので、そういったことも含めて開催案に具体的に反映していただきたい。

【C 委員】

ネクストモデル構築事業実施において、コロナ禍で非常に苦労が多かったと思う。とりわけ事務局は大変だったと思う。ただアンケートにもあるように非常にいい資料ができたと感じており、ここまでの分析をしていただきありがたいと思う。今回の実証実験ではそれなりの方向性、検討すべき課題は上がってきたと感じている。だからこそ、今回の実証実験の知見を生かし、阿波おどりを着実に実施していくことが必要だと考えている。そのためには今回の実証実験で得られた情報や問題を実際に反映させるために現在阿波おどり実行委員会と契約をしている事業体にも十分に現状を理解していただいたうえで本

年の阿波おどりの計画策定をしていただく必要があると考えている。本日の会議には事業体は出席していないが、出席を求めていくべきではなかったのか。そういったことが今年の阿波おどりのスムーズな実施に繋がっていくのではないかと考えているので、今後也十分に事業体と連絡を取っていただきたいが、なぜ本日は出席していないのか。

昨年実施できなかった徳島の阿波おどりを今年はできるだけ実施するという方向性で考えていくべきだと思う。当然コロナ状況等も踏まえながら検証しなければいけないと思うが、実証実験を踏まえて、先ほど委員長からもあったように栈敷を何カ所設けるのか、場所をどこにするのか。それらのアウトラインに基づいて観客が何人なのか、収支の検討や踊り手にどのような協力をお願いするのか。PR やチケット販売をどのようにしていくのか。これから処理していかなければいけない事項がたくさんあり、先ほど A 委員からもあったようにあまり時間がないと感じている。それぞれの事項を時系列で処理していくなかで、最終的な決断をしていくようになると思うが、8月の阿波おどり実施に向けて、現在事務局としてはどのようなスケジュール感を持っているのか伺いたい。

【事務局】

現在のスケジュール感としては、本日の検証結果報告で意見をいただき、それを踏まえて、来年度の開催に向けた計画の検討を進めていこうと考えている。スケジュール的には2月に入ってからにはなると思うが、実施の方向性について示させていただきたい。

【C 委員】

スケジュール感では2月に入ってから固めていくということになるということだが、若干時間的に厳しいという印象を持っているので、次回にどのようなものが出てくるのか、しっかりと検討させていただきたい。

1点目の事業体が出席していないのは何か理由があったのか。

【事務局】

本日の会議においては事業体に出席は求めているが、当日のイベント実施や開催に至るまでのやり取りについては事業体の構成団体である株式会社ネオビエントにも協力をいただいております、連携を取りながら事業を進めていた。

【C 委員】

了解した。

【委員長】

株式会社ネオビエントには運営に入らせていただいたので、今回の実行委員会が出た意見については、密に連携を取って伝えていただきたい。

【D 委員】

今までの委員の意見と重複するが、まず踊り手をはじめ、こういった環境の中で参加いただけて本当にありがたかったと思う。今回の実証実験ということで実はほとんど県内の方だと思っていたが、県外からも45%参加されたことには驚いている。阿波おどりの人気、関心の高さを表していると感じている。C委員からもあったが、今回の実証実験を

踏まえ、8月に向けて検討を開始する時期はもう始まっているのではないか。今回の藍場浜は栈敷として比較的独立しており、規制が設けやすいところを優先して選んでいるが、阿波おどり全体を考えると4つの有料栈敷があり、無料の栈敷もある。そういったところについては同じような規制をするとなると非常厳しいのではないか。また、踊り込む連については、今回は手を挙げて参加いただいているが、8月の阿波おどりになった時にどの程度の連が参加してくれるのか、極端に少なくともは困り、逆に極端に多くなると密になるということが出てくるので、その辺をどのようにしていくかという課題がある。また、屋台や観客をどの程度入れていくか。それと選抜阿波おどりと前夜祭があるわけだが、そのやり方は今回のネクストモデル構築事業ではなく、徳島県で実施されたニューノーマル阿波おどりの祭典の結果について伺えたらと思う。

また、以前から栈敷以外の道路で流し踊りや輪踊りにたくさんの人が集まっており、雑踏が混雑するところであるので、そこの取り扱いをある程度決めていかなければいけないと思っている。また、参加連に関して、企業が出るのか出ないのかによって有名連とのタイアップも出てくると思う。

阿波おどりを開催するにあたり一番大事なのは観客が楽しめるかどうか、踊り手が楽しめるかどうかだと思う。そういった観点から、それを満たすような阿波おどりにできるだけしていかなければいけないが、コロナ禍なので規制をかけなければいけないこともあるので、どこで落としどころを付けるのか非常に難しい課題であり、十分に検討する必要がある。経済界から言えば、年間の売り上げの何分の1かを阿波おどりの4日間で占めるといふようなところも非常に多いので、できるだけ多くの方にも来ていただきながら、感染症対策をしっかりとやっていく必要があると思う。

会議の前にインターネットで調べたが、雪祭りはオンラインだけで開催すると決まったようである。以前から話しているように他の祭り、博多どんたくなどは5月に開催だったと思うが、今のところ開催の方向で進めているのではないかと思う。他の情報をできるだけ集めるなかで、可能な限り開催する方向で検討していくことが大事だと思う。ただ、開催の方向で検討するとなれば、ある程度の準備費用が掛かってしまうので、そもそも開催したとしても収支が取れるかどうかという面で課題は出てくる。準備はしたが、今回のような緊急事態宣言が発せられたら、なかなか開催するということにはならないだろうと思うので、ある程度ルール化しておく必要があると思われる。今回の実証実験ではなく次に向かってというような形で話させていただいたが、できるだけ早いスケジュール感を持ってやっていく必要があると思うので、事務局は大変だと思うがそれぞれ準備をお願いしたい。

【委員長】

開催する方向でということ各委員から色々と指摘をいただいているので、事務局で早急に具体的な案を作成いただきたい。

【E委員】

概ね他の委員と同じ意見である。1日でも早く計画を作っていただくことが重要ではないかと考えている。委員の皆様は同じ考えだとは思いますが、今までと同じようなものを考えたのでは難しいのではないかと考えている。今は事務局から出てきた計画を委員の皆様と共有していくことが重要になると思うので、話があったようにまず観客は何人入れることができるのか、これは4つの演舞場で今回の事業から図ることができると思う。報告書にもあったが、グループなどの考え方をしていくと席によって値段を分けたり、シングルは残すであったりなど、かなり複雑な売り方にはなってくるのではないかと考えているので、そうした値段のところまで考えていく必要がある。見えるところやスペースの広さで値段を考えていくのがいいのではないかと。

できることとできないことを明確に早く判断することで色々な方たちに協力してもらえるところの役割を振っていくことができると思うので、少しでも早くその辺りをお願いしたい。

【委員長】

E委員からもあったように、まず具体的なものを早く作らないとそもそも議論ができない部分があるので、実証の検証結果や委員からいただいた指摘や課題を含めて、踊り手の意見も反映しながら具体的な計画を事務局で考えていただければと思う。

【A委員】

今回の実証事業を踏まえ、この報告書や委員からの指摘で様々な検討課題が出されているが、現在参加している6名の委員の体制では全ての知見を持ち合わせているわけではないので、多角的な面からの十分な検討が難しいのではないかと。10月の阿波おどり実行委員会において、D委員からも例えば医学的な専門知識を持った方、20代前後の若い学生の方、女性文化芸術に造詣の深い方など専門的知識を持って中立公平な議論ができるように委員の補充を検討いただきたいと提案があったと思うが、現在はどのような状況になっているのか。また、コロナ禍の中で感染予防に万全を期して安全安心に阿波おどりを開催するためには地域をはじめ多くの皆様方の理解と協力が不可欠であると考えており、そのためには専門的な観点でしっかりとした議論ができる委員会構成を示していただき、これまで以上に地元商店街をはじめ民間事業者ともしっかりと連携して運営できるように検討していただきたい。

【事務局】

10月の阿波おどり実行委員会においてD委員から委員補充については、現在検討を続けているところである。

また、指摘をいただいた民間事業体としっかりと連携した阿波おどり事業の運営できる体制づくりについては事務局で十分に検討させていただきたい。

【D委員】

A委員からもあったように10月に委員補充のお願いをしたが、当時一番心配したのは感染症の関係で実証実験を実施するにあたり、これで大丈夫なのかという自分自身が

不安を持ちながらであったので、色々な方の専門的な意見を聞きたいというのが一番大きな主題であった。阿波おどり実行委員会には入っていただいているが、事務局の方でそういった方に話を聞いたうえで対応しているということなので、事務局から説明はなかったがせっかくなので話させていただいた。いずれにしても阿波おどり実行委員会の体制の強化は必要だと考えているので、検討いただきたい。

【事務局】

感染症対策のマニュアルを作成した後に徳島大学の感染制御部の方にマニュアルを確認いただいて意見もいただいている。

【委員長】

コロナ対策は今後も必要となるので、現在は検討中とのことだが、2人の委員から意見をいただいたように体制の強化を図っていただくようお願いしたい。

今回のネクストモデルの開催には徳島県からも支援をいただいております、本日は徳島県からも出席いただいておりますので、意見を伺えればと思う。

【徳島県職員】

阿波おどりネクストモデル構築事業について、短い準備期間の実証のチャレンジ、また、報告書も丁寧にまとめられていることについて敬意を表したい。

報告内容については、委員の皆様から意見いただいたと思うので、私からは特別に申し上げることはないが、D委員からの意見にもあったように徳島県のニューノーマル阿波おどりの祭典の事業結果について、現在分析中であるので大まかな概略になると思うが説明させていただければと思う。観客にアンケート調査を実施し、感染症対策については概ね高評価をいただいているところではあるが、本日の報告書のデジタルチケットのもぎりのところにも記載があるが、スマートフォンの操作に不慣れな方、高齢者の方でデジタルチケットのもぎりで操作方法がわからなくて、結果、係員が実際にスマートフォンを操作して案内する。その時に体が触れ合う状態になってソーシャルディスタンスを保つべきところが保てない場合もあった。今後はデジタルチケットの運用やもぎりのあり方について考えるところがあると思う。ニューノーマル阿波おどりの祭典ではアスティとくしまの本来の収容人員5,000人のところを1,000人で実施をした。実際は当日キャンセルされる方もあって、その数を下回る人数の方に参加いただいたが、それでも、もぎりの時にはそういった状況が見受けられた。もし参加人数を増やすとなるとそういったことが多く見られることにもなると思うので、屋外でも屋内でももぎりのあり方の検討を要することだと分析している。

ニューノーマル阿波おどりの祭典の入退場については時差を付けて実施した。このことについては観客の方も概ね遵守していただき、全体としてスムーズであったが、動線が交差するところ、動線が集まるところはどうしても密になるとことはあった。また、会場を出てから実際に帰られるところの密対策は依然として残っているところである。

客席配置については、1,000人以下という定員を定めており、これにより安全安心

の観点から隣と空いて良かったと言っただけのお客様もいれば、今回のイベントは間が空いておけ声も控え気味になっていたのも、寂しさからもう少し詰めても良かったのではないかという意見もいただいている。また、アスティとくしまは密閉空間なので、開催時間中は換気を行っており、そういう関係で時期的に寒かったという意見をいただいているところである。総じて言えば概ね良かったという評価を8割ぐらいいただいているところではあるが、そういった点で多々改善するところもあると思われる。

ニューノーマル阿波おどりの祭典、阿波おどりネクストモデル構築事業において共通して飲食、物販の設置した場合の検証というのができていない。また、D委員からもあったように、阿波おどりの特有の輪踊り的な演出、雑踏対策こういったところについては、本番はどのように対応していくのか課題として残っている。経済効果を上げていくためにはどう取り組んでいくのかこれは避けては通れない議論だと思うので、そういったところも考えながらどうすれば本番の阿波おどりに繋げられる、どうすれば本番の阿波おどりを開催できるという議論は十分に必要だと感じている。私どもが開催したニューノーマル阿波おどりの祭典についてはしっかりと分析したうえで、本番の阿波おどり開催に繋がるよう情報共有しながらともに検討していければと考えている。

【委員長】

前夜祭や選抜阿波おどりもあるので、今後とも密に連携を取っていきたい。

今年の夏の阿波おどりに開催に向けて、今回の検証結果や委員の方々の意見を踏まえるとともに、踊り団体の方々にも今回の検証結果も報告し、事務局で十分に意見を伺うようお願いしたい。

その他に意見等はないか

(特になし)

以上を持って2020年度第4回阿波おどり実行委員会を終了とする。